

【1 分解説】労働分配率とは？

総合調査部 研究理事 河谷善夫

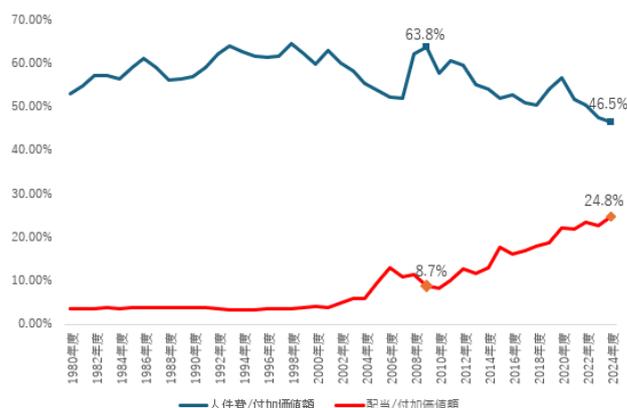
労働分配率とは、企業が生み出した付加価値のうち、どれだけが人件費として労働に配分されているかを示す指標です。一般に「人件費÷付加価値」で計算され、企業の収益がどの程度労働に分配されているかを見る際に用いられます。近年は株主還元の拡大などを背景に（資料1）、企業が労働より株主への還元を重視しているのではないかとの議論が多くみられます。

もともと、労働分配率は分母となる付加価値の大きさに左右されるため、比率だけで企業の労働分配状況を判断するには注意が必要です。付加価値を多く生み出す企業では、人件費の金額が大きくても分配率は低く見える場合があります。

そこで企業別に労働分配額と株主分配額（配当金+自社株買い）の関係をみると（資料2）、株主還元が大きい企業ほど労働分配が小さいという明確な関係は必ずしも確認されません。むしろ企業規模や付加価値創出力が大きい企業では、労働分配額と株主分配額の双方が大きくなる傾向がみられます。

このように企業の分配構造を理解する際には、労働分配率という比率だけでなく、分配額や付加価値創出力も併せてみる必要があるといえます。また、企業の分配姿勢がどのように変化しているのかを把握するには、時系列での比較も重要となります。

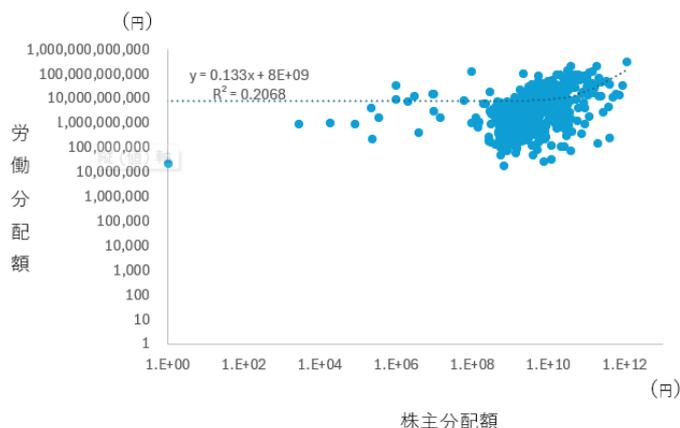
資料1 付加価値額に対する人件費と支払い配当額の割合の推移
（資本金10億円以上企業）



（注）付加価値額は、法人企業統計では、営業純益+役員給与+従業員給与（賞与も含む）+福利厚生費+支払い利息等+動産・不動産賃借料+租税公課で算出されている。人件費は従業員給与（賞与も含む）+福利厚生費。

（出所）財務省「法人企業統計」データより第一生命経済研究所作成

資料 2 株主分配額と労働分配額の関係



(注)両軸とも対数のグラフとしている。対数グラフでは、軸のメモリは1→10→100のように10ごとに等間隔で表示するので、値のばらつきが大きいデータでも違いや変化を比較しやすい。このグラフで軸に対数をとったのは、企業の労働分配額、株主還元額の実数での差が大きすぎて、グラフにしたときに非常に分かりづらくなるためである。なお、対象企業は、2025年6月に2024年度決算の有価証券報告書を提出したプライム市場上場企業の内、EDINET・Bloombergでデータが取得できた635社である。

(出所)EDINET 及び Bloomberg データより第一生命経済研究所作成

関連レポート

- ・「株主還元をどう捉えるか? ~相反する考え方を踏まえた新しい視座に向けて~」(2025年5月)
<https://www.dlri.co.jp/report/ld/448759.html>
- ・「株主還元は賃上げの敵なのか? ~企業データで検証する分配構造~」(2026年3月)
<https://www.dlri.co.jp/report/ld/581134.html>